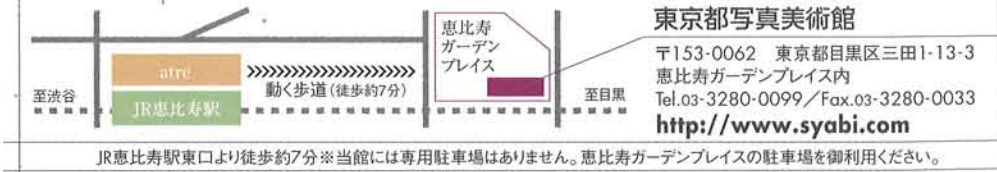


SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

2004	3F展示室	2F展示室	B1F映像展示室	1Fホール
10	マリオ・テストイーノ ポートレート展 10月16日(土)～ 11月21日(日) ※3F展示室・2F展示室 同時開催		SSF世界スポーツ フォトコンテスト 2004写真展 10月21日(木)～ 11月3日(水・祝)	雲一息子への手紙 9月11日(土)～10月22日(金) ショートショートフィルム フェスティバルアジア2004 10月29日(金)～10月31日(日)
11	キャノン写真新世紀展 11月27日(土)～ 12月19日(日)		ミッション: フロンティア —知覚の 宇宙(そら)へ 11月9日(火)～12月15日(水)	 オランダの光 11月3日(水・祝)～ 12月17日(金)
12	 「日本の新進作家—新花論」展 12月25日(土)～ 2005年2月6日(日)	「明日を夢見て」 ～アメリカ社会を動かした ソーシャル・ドキュメンタリー 11月27日(土)～ 2005年1月16日(日)	 クレア・ランガン 「フィルム・トリロジー」展 12月18日(土)～ 2005年1月30日(日)	イタリアアニメーション映画祭 12月18日(土)～ 12月26日(日)
2005	1 上野彦馬賞展 2月11日(金/祝)～ 2月19日(土)	 「HEIAN 戸田正寿作品展」 1月21日(金)～2月19日(土)	グローバルメディア展(仮題) 2月5日(土)～ 3月13日(日)	ネオ・ファンタジア 1月2日(日)～1月28日(金)
2	文化庁メディア芸術祭 2月25日(金)～3月6日(日)			サンサ 1月29日(土)～2月20日(日)
3	APA展 3月12日(土)～3月27日(日)	小林伸一郎写真展 「CHANEL GINZA BUILDING」 3月12日(土)～ 4月17日(日)		文化庁メディア芸術祭 2月25日(金)～3月6日(日)
4	開館10周年記念特別企画 4月2日(土)～ 5月22日(日)		「Ten Views of Spain」 3月19日(土)～4月24日(日)	※このほかについての 詳しい情報は ホームページをご覧ください。
				※スケジュール・展覧会タイト ルは予告なく変更される場合 があります。 最新のスケジュール詳細は ホームページをご覧ください。

ご利用案内	●休館日：毎週月曜日(休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日) ●開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで
年始特別開館 1月2日より開館	2005年1月2日(日)～4日(火) 開館時間：11:00～18:00(入館は閉館の30分前まで)
全館セット割引 チケットの販売	お得な割引料金で展覧会をご覧いただけるセット割引チケットを販売しております。 詳しくはチケット売り場でおたずねください。



※本誌掲載ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則的に消費税込みの価格です。
東京都写真美術館ニュース「アイズ04」44号 ●発行日:2004年10月19日/企画・編集:東京都写真美術館学芸課 普及係 ●印刷・製本:
JTB印刷株式会社 ●発行:財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2004 ●本誌掲載の記事、写真の無断複製、複製を禁じます。



ジェローム・リープリング/バタフライ・ボーイ 1949年
Columbus Museum of Art, Ohio : Photo League Collection, Museum with funds provided
by Elizabeth M. Ross, the Derby Fund, John S. and Catherine Chapin Kobacken
and the Friends of the Photo League.

eyes 2004 Vol.44
東京都写真美術館ニュース「アイズ」



ナッシュビルの子供新聞少年たちの群。真ん中にあるのは7才のサム。頭が良く、いたずらである。この少年は夜も新聞を売っている。
ルイス・W・ハイン/メリーランド州ボルチモア大学アルビン・O・キューン図書館蔵

Topics

ソーシャル・ドキュメンタリー写真の歴史——
それは、「写真で社会を変えられる」と信じた写真家たちの足跡でもありました。

——写真が見る者の心を揺さぶり、ついには社会変革まで起こす大きな材料となり得ることは、今でこそ当たり前のように捉えられています。しかし、その始まりにはいったいどんな背景があったのでしょうか？

19世紀末から20世紀前半のアメリカでは、このソーシャル・ドキュメンタリー写真が積極的に用いられました。

当時、南北戦争が終わってひと段落したアメリカの写真界では、社会の現実を忠実に記録し、発表することで人々の目を社会問題に向けさせ、社会改良を図ろうとする考えが広まりつつありました。写真はそれを表現する最適な手段だったのです。

「ニューヨークヘラルド」誌の警察まわりの記者であった**ジェイコブ・リース**が、低賃金労働者の生活の惨状にショックを受け、ニューヨークで暮らすヨーロッパ人移民たちの貧困にあえぐ姿を取材し、カメラに収めたのは1890年前後の事でした。スラム街はギャングらのアジトも多く、犯罪の巢窟となっていました。しかし、リースは迷うことなくその中の安いアパートの一角を借りて住み、移民者たちの暮らしに密着しながら取材を進めたといわれています。薄暗い部屋の

中での撮影も、当時、新しく出たフラッシュによって可能となりました。1890年、リースはこれらの記録を最初の著書『世界のもう半分はいかに生きているか』に発表。写真版と写真をもとにした木版画、彼の文章で構成されたこの1冊の本は人々に大きな衝撃を与え、貧困は個人のみにかかるものではなく、社会構造にも責任があることを気づかせてくれました。

1893年になると、アメリカ全土を経済的な恐慌が襲いました。その被害を受けたのが幼い子供たちです。子供たちは安い賃金で工場に雇われ、朝から晩まで過酷な労働を強いられました。炭鉱の暗いトンネルでは何千人という14才、15才の少年たちが合法的に雇われていました。缶詰工場ではまだ夜が明けぬ



*1

*2

③ うちから6才ぐらいの子供たちが小さな指でカキや海老の殻をむきながら、学校にも行かずに1日を終えていました。ほこりと糸くずが漂う綿紡績工場では、肺結核や慢性気管支炎といった呼吸器の病気にかかる子供も後を絶たず、生きて12才をむかえられる子はほんの一握りだったといえます。

産業の担い手として働かされる子供たち……。その姿を撮影し続けたのが**ルイス・ハイン**です。1906年から児童労働委員会のメンバーとなった彼は、大きな箱型カメラを抱え、メイン州のイワシ工場から、テキサス州の綿花畑まで、アメリカ中を旅してまわりました。ハインには、そこで見た悲惨な状況を広く一般の人々に知ってもらうことで、弱者である子供たちを救いたいという願いがありました。しかし、工場の雇い主からは歓迎されるはずがありません。時には暴力を振るわれることもあったようです。そこで、ハインは消防署の査察官や保険のセールスマンを偽り、工場にもぐりこみ、可能な限り子供たちの働く姿をカメラに収めようとしてきました。ある繊維工場では、工業写真家を名乗り、まずは機械を写した上で、その大きさを示したいからと、子供を織機の前に立たせて撮影しました。出来上がった写真は、小さな子供がいかに大きな機械を使って働かされているかを如実に表す結果となりました。真実を伝えるために、彼は色々な工夫も凝らしました。着用していたベストのボタンひとつひとつの床からの高さを覚えておき、子供が横に立っただけで身長を測るメジャーの役割を果たしました。また、ポケットには小さな手帳を隠し持ち、撮影した子供の名前や年齢、労働時間や賃金などのデータを正確に記していたといえます。

これらの作品は新聞や雑誌、またはポスターなどに掲載され、多くの人々に信じられない真実を白日のもとにさらしました。ハイン自身も作品を幻灯用のスライドにして各地をまわり、講演活動を行いました。やがてハインの警句なメッセージは

報告

「明日を夢見て
～アメリカ社会を動かした
ソーシャル・
ドキュメンタリー」展 勉強会
ルイス・W・ハイン
作品にみる
写真と社会改革



「明日を夢見て」展開催に先駆け、去る8月26日(木)にルイス・ハイン研究の第一人者であるメリーランド州ボルチモア大学のトム・ベック教授を招き、勉強会を開催致しました。ビデオ上映のほか、スライドや図版によるレクチャーではエリス島やボルチモア地区で撮影された初期の作品から、晩年の作品までを取り上げ、彼がどのような人物で、なぜ児童労働を撮るようになったのか、その技法や、作品が持つ社会的、美的価値を探りました。



*3

*4

世論を動かし、児童労働法制定の機運を高める結果となりました。彼が写した作品が、子供たちを過酷な労働から救う強力な武器となったのです。

その後、写真における社会的な役割は重要な位置を確立していき、1940年には映画『怒りの葡萄』でも取り上げられた農民の惨状を、農業安定局のプロジェクトメンバーとして雇われた**ウォーカー・エヴァンズ**、**ドロシア・ラング**、**ベン・シャーン**らが記録しました。彼らが写し出す作品は、単なる記録にとどまらず、芸術性の点でも高い評価を得ています。

そして、人々に都市の新たな価値観を見出させたのが、**ベレニス・アボット**の『変わりゆくニューヨーク』です。アボットは急速な機械化と工業化によって激変する摩天楼都市を即物的な眼で写し出すことに成功しました。

また、1936年に設立された写真家集団「**フォトリーグ**」では、写真教育で世界を変えていくことを信じて、ソーシャル・ドキュメンタリーが取り入れられるようになりました。労働者階級が抱える問題など都市生活の影の部分を描写した作品は、リースやハインらがより良い社会を夢みた頃のように、どれも勇気と情熱に溢れています。

アメリカを変えたソーシャル・ドキュメンタリー写真の数々。これらの作品はこれからもなお、私たちの心の中に一石を投げ続けていくことでしょう。

明日を夢見て

～アメリカ社会を動かした
ソーシャル・ドキュメンタリー

*1 / ジェイコブ・リース/強盗たちの根城、マルベリー・ストリート59 1/2番地、1880年代、東京都写真美術館蔵

*2 / ベレニス・アボット/アレン通り、No.55-57、1937年2月11日
Federal Art project, "Changing New York" Museum of the City of New York, WPA Federal Art Project
©Museum of the City of New York.

*3 / ドロシア・ラング/農業安定局で社会復帰中のクリス・アドルフのこども。ワシントン州ワバト付近のヤキマ渓谷。個人蔵

*4 / ベン・シャーン/失業中の狐師たち、ルイジアナ州、1935年 個人蔵

2F / 2階展示室
Exhibition Gallery

年始
特別開館
1月2日より開館

友の会
無料

三越カード
割引

アレカード
割引

2004年11月27日(土)→2005年1月16日(日)

「明日を夢見て」 ～アメリカ社会を動かした ソーシャル・ドキュメンタリー～

詳細ホームページ <http://www.syabi.com/schedule.html>



ルイス・W・ハイン/ジョージア州オーガスタ、1909年
メリーランド州ボルチモア大学アルビン・O・キューン図書館蔵

シャーン作品を中心に。第4部は変わりゆくニューヨークの街並みを綿密なリサーチを基に撮影したベレニス・アポット。第5部ではアロン・シスキンドを筆頭に蒼々たる写真家たちを世に生んだ写真家集団「フォト・リーグ」が行った写真教育。代表作「ハーレム・ドキュメント」などの他に日本初公開作品と関連資料もあわせて、本展では約200点をご紹介します。よりよい明日を夢見て、社会的問題を記録し続けた写真家たちの情熱に是非、触れてください。

- 一般 600(480)円 ○学生 500(400)円
- 中高生・65歳以上 300(240)円
- ()は20名以上の団体料金および上記カード会員割引
- ※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
- ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料
- 主催：東京都/東京都写真美術館
読売新聞東京本社/美術館連絡協議会
- 後援：アメリカ大使館 ○助成：芸術文化振興基金
- 特別協賛：ユナイテッド航空 UNITED 芸術文化振興基金助成事業
- 協賛：花王株式会社/Kodak/モルガン・スタンレー Morgan Stanley
- 特別協力：瞬報社写真印刷株式会社

公募展
同時開催

写真展「明日を夢見て～アメリカ社会を動かした
ソーシャル・ドキュメンタリー」関連イベント

写真のチカラ。作品発表展

2004年11月27日(土)～2005年1月16日(日)
東京都写真美術館 2階展示室前ロビー

「明日を夢見て」展の関連イベントとして、全国の小・中・高等学校を対象に、学校生活をテーマにしたドキュメンタリー写真作品を公募しました。生徒のみなさんによる生き生きとした作品をお楽しみください。

展覧会期間中に
学芸員による
ギャラリーツアーを
開催いたします。
詳細はホームページを
ご覧ください。

eyes

| 03 |

同時開催

3F・2F / 3階展示室・2階展示室
Exhibition Gallery

友の会
割引

三越カード
割引

アレカード
割引

2004年10月16日(土)→11月21日(日)

MARIO TESTINO PORTRAITS マリオ・テストイーノ写真展 ポートレート

詳細ホームページ <http://www.syabi.com/schedule.html>

- 一般 1,200(960)円 ○学生 1,000(800)円
- 中高生・65歳以上 800(640)円
- ()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、上記カード会員割引料金
- ※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
- ※第3水曜日は65歳以上無料

- 主催：東京都写真美術館/朝日新聞社
- 協賛：バーバリー



"Madonna" Ray of Light Album Cover 1998, Miami © Mario Testino

「ファッション写真界の貴公子」として、有名ファッション誌やトップブランドの広告写真を手がける人気写真家、マリオ・テストイーノ。1970年代後半に南米ペルーのリマ市からロンドンへ移住し、本格的に写真を取り組み始めたテストイーノは被写体の品格、キャラクターを際立たせる作風で高い評価を受け、一躍、有名写真家の地位に上り詰めました。各界の著名人がポートレートの撮影時に彼を指名することでも知られており、なかでも事故で亡くなる前に撮影された故ダイアナ元妃のリラックスしたプライベート写真は話題となりました。ダンディで魅力的でありながら常に自然体なテストイーノは、周囲の人々の気持ちをほぐし、現場の雰囲気をもたせざる才能の持ち主。人間味溢れる彼に、セレブたちはこころの信頼を寄せ、心開くのです。本展では、先のダイアナ元妃をはじめ、マドンナ、ベックカム夫妻、ケイト・モス、ジュリア・ロバーツ、メグ・ライアン、キャメロン・ディアスなど約110点のセレブたちの肖像写真を紹介。独特の華やかな色合いのなかに見える有名人たちの飾らぬ素顔をお楽しみください。

◎お問い合わせ：
「マリオ・テストイーノ写真展 ポートレート」
広報事務局 03-3263-5621

| 04 |

eyes

2004年11月9日(火)→12月15日(木)

ミッション:フロンティア
— 知覚の宇宙(そら)へ
Mission: Frontier
- deep space of our perception

詳細ホームページ <http://www.syabi.com/schedule.html>



橋本典久「ゼログラフ」

21世紀を迎え、人類に残された最後のフロンティアである「宇宙」や「深海」、私たちの身体や脳内など「インナースペース」への注目はますます高まっています。本展では、アーティストや科学者が展開する未知の世界を視覚的に探求する試みや、そこから生まれるすぐれた造形性・概念をもつ取り組みを特集します。従来の理想郷としての宇宙ではなく、CM撮影や宇宙計画(ミッション)の進む「日常」としての宇宙を中心に、まだ見ぬ視覚的フロンティア=科学と芸術の融合領域を、音や光の体験型メディアアート作品や資料展示、「第18回宇宙飛行士会議」(2003)インタビューなどを通して体験的に展開します。宇宙・深海・脳内という3つの要素を中心に、協力機関からの特別展示物(写真・映像・立体)に加え、アーティスト作品(現代美術、映像、音や光のメディアアート)によるインスタレーション展示、人気の食玩「王立科学博物館」シリーズ完全版・原画展示、シンポジウム・ワークショップなどの関連事業を行います。本展は、これらを通して次なる世界へ到達しようという探求や想い、そして科学と芸術とのコラボレーションが実現する新しい可能性を提示しようという試みです。



「ミッション:ジェミニ・タイタン4号」
1965年6月3日-7日
1965年 ポートフォリオNASA
「宇宙への旅-25年の歴史」1991年より

ミッション:フロンティア—
知覚の宇宙(そら)へ関連対談
文化と科学はどこへ行くのか—
博物館・美術館の役割

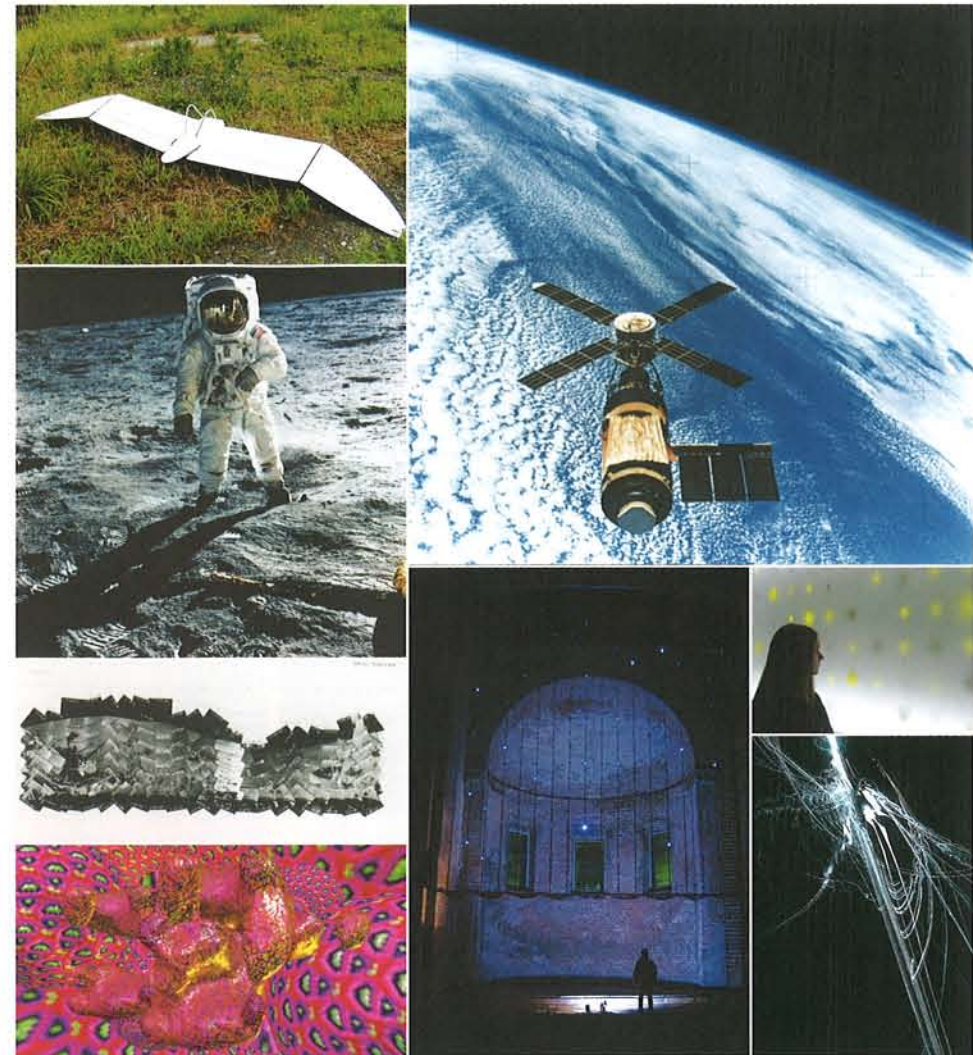
毛利衛(日本科学未来館館長・宇宙飛行士)
福原義春(東京都写真美術館館長)対談
○日程:10月23日(土)14:00~15:30
○定員:190名
○会場:東京都写真美術館 1Fホール
○参加方法:
下記までお電話にてお問い合わせください
TEL 03-3280-0099(※定員になり次第、締切ります)
※詳細はホームページにてご確認ください

出品予定作家

逢坂卓部 / 河口洋一郎
木本圭子 / 橋本典久
八谷和彦 / 原田大三郎
ヤノベケンジ / 米林雄一 ほか

出品予定資料

「NASA宇宙への旅-25年の歴史」
「王立科学博物館」I・II
「太陽と9つの惑星」ほか



- 1.八谷和彦「メーヴェ1/5」 協力=有限会社オリンポス
 - 2.NASA「宇宙への旅-25年の歴史」より「ミッション:アポロ(サターン)11号 1965年6月3日-7日」
 - 3.NASA「月面探査ミッション 1966年-68年」より「月の影」
 - 4.河口洋一郎 立体ハイビジョン作品「Cerebran」
 - 5.NASA「宇宙への旅-25年の歴史」より「スカイラブ3号 1973年7月28日-9月25日」
 - 6.逢坂卓部「Appearance and Disappearance」/7.「Appearance and Disappearance - Mirage」
 - 8.木本圭子「イマジナリー・ナンバーズ」
- ※すべて参考図版

1	5
2	7
3	6
4	8

新花論

On Flowering Images; Contemporary Japanese Photographic Art

櫃田 珠実

My Statement

花は庭にあってその審美的な関係だけではなく、生命と運命と形態を見出すことができるものです。花や木々で実際の庭をつくることは、空気や光り水などを取り込んだ小さな宇宙を意識的につくりだすことだともいえるでしょう。今回の展示は、現実の風景から切り離された「花園」を想起させる写真作品の制作を考えています。

PROFILE / 櫃田 珠実 (ひつだ たまみ)

1958年、香川県高松市生まれ。愛知県立芸術大学大学院修了後、渡英。英国国立芸術大学大学院で美術を修めMAを取得し帰国。1983年の個展以来、国内外の展覧会で幻想的な絵画作品を中心に展開。近年は、デジタル技術に応用した絵画と写真のリミックス作品を精力的に発表している。



Floating World 1 © Tamami Hitsuda



Floating World 3 © Tamami Hitsuda



オーキッド2003「人とロボット展」(VARI日本文化会館) 2003 © Yuji Dogane



airmoss plantron 1998 「アートが表現する植物の生命カ- 幻想植物園展」(平塚市美術館) 1998 © Yuji Dogane

銅金 裕司

My Statement

花を見ると、人は人であることを確認し、安楽し、ほっと胸を撫で下ろすのである。花こそが精神の目覚めなのだろう。そんな自己に覚醒、陶酔する契機こそが「美」的なものであるとは言えないだろうか？

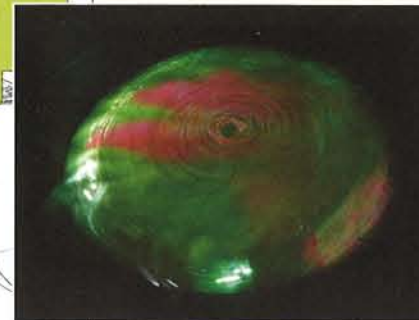
PROFILE / 銅金 裕司 (どうがね ゆうじ)

1957年、兵庫県神戸市生まれ。千葉大学大学院博士課程を修了し、学術博士(Ph.D. 植物生理学)および工学修士(海洋学)を取得。1991年より、植物と環境の生理をテーマに、作家活動を開始。展覧会をはじめ、各種ワークショップも開催。

鬼頭 健吾

My Statement

私は常にとりとめもなく広がり、そしてその中で歪みや収縮といった、相反する運動を繰り返していくような運動体としての構造というものを意識している。黄色い街灯の光によって植物は均一に染め上げられ、道路を行き交う車のテールランプがあたかも夜、花が咲いているかのような情景を作り出す。光がまるでウイルスのように全てを汚染し尽くしていく、そしてそのウイルスは私たちの身体にも染み込んでいくイメージ。



quasar © Kengo Kitou

PROFILE / 鬼頭 健吾 (きとう けんご)

1977年、愛知県名古屋市生まれ。名古屋芸術大学絵画科洋画コース卒業後、京都市立芸術大学大学院美術研究科で油画を修める。作家活動とあわせて、1999-2001年まで自主運営スペースdoiの設立+運営に携わり、常に「動き」のあるユニークなインスタレーションを発表し続けている。

赤崎 みま

My Statement

光の庭を歩く

そこではオリーブが、クローバーが静かに発光している平和でありますようにしあわせになれるようにそれは古来より、これらの植物に託されてきたメッセージその姿に蓄えられた希望の光もしも暗闇の中にも「光の存在があることを」決して忘れないで 植物たちはささやく

光の庭にたどりつく

そこではこの世のいのちを終えたものがふたたび光る姿に出会うことができるかすかに発光しはじめる 枯れた花々これらのうちからあらわれた 青い光花たちは、いのちを吹き返し、永遠の光を発していく



蓮・花とつぼみ © Mima Akasaki



クローバー(であう) © Mima Akasaki

PROFILE / 赤崎 みま (あかさき みま)

1965年、兵庫県神戸市生まれ。武蔵野美術大学工芸工業デザイン科卒業。1989年の個展以来、主に国内のグループ展に数多く参加。モチーフを変えながらも、「光」をテーマにした写真作品を次々と発表し、鮮やかな発色とその色彩効果を求めて、独自のフレーミング・メソッドに挑む。

3F / 3階展示室
Exhibition Gallery

年始
特別開館
1月2日より開館

友の会
無料

三越カード
割引

アトカード
割引

2004年12月25日(土) → 2005年2月6日(日)

日本の新進作家vol.3—新花論

On Flowering Images;
Contemporary Japanese Photographic Art

詳細ホームページ <http://www.syabi.com/schedule.html>



"Rose-cross" © Tamami Hitsuda

東京都写真美術館では、“写真表現の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場とする”ことを基本的理念として、これまでも積極的に現代写真の展覧会を開催してきました。02年には新進気鋭の写真家によるグループ展「日本の新進作家—風景論」を開催し、03年には、より精神的な作家の内的世界を探るべく、「幸福論」というテーマを通して、写真作品のみならず、広義での視覚芸術に上るマルチプルな展示を試み、好評を得ています。

こうした試みは、一過性のイベントとして終わらせるものではなく、今後も継続的に開催していくことで、多くの人々に現代写真・現代美術の流れを提示し続けていきたいと考えています。今回は、有史以来あらゆる芸術のモチーフとされる花をテーマに、現代アートシーンを代表する若手アーティストらの新作を展示いたします。——人はなぜ花に魅せられるのか…。本展覧会を通して一緒に考えてみませんか？

Work
Shop

「日本の新進作家—新花論」展 関連ワークショップ「MEET THE ARTIST」開催

会期中は、作家と来館者のみなさんが気軽にコミュニケーションをはかることのできる、MEET THE ARTISTという一般参加型のワークショップを開催します。作家自身によるフロアレクチャー(作品解説)やスライドレクチャーなど、出展作家とともに展覧会や作品制作のコンセプト、それらにまつわるさまざまなエピソード等を共有できる「出会い」の場をお楽しみください。

※詳細は決定後ホームページにてお知らせいたします。

eyes

| 09 |

3F / 3階展示室
Exhibition Gallery

2004年11月27日(土) → 12月19日(日)

写真新世紀展2004

New Cosmos Of Photography Exhibition 2004

○入場無料

○主催：キヤノン株式会社
○共催：東京都写真美術館

詳細ホームページ <http://web.canon.jp/newcosmos/>



© Yasuhiko Uchihara

いまや新人写真家登竜門として認知の高い「写真新世紀展」。91年よりキヤノンが新たな写真文化創造・発展のために行っている新人写真家発掘・育成・支援を展開している公募展ですが、これまで国内外で活躍するオノデラユキ、佐内正史、蛭川実花、野口里佳等、多数の写真家を輩出しています。

本展では、今年開催された第27回公募から選出された5名の優秀賞受賞作品を紹介。ほかにも同会場内では、内原恭彦氏(2003年度のグランプリ受賞者)の個展を開催。内原氏の新作はキヤノンデジタルカメラEOS-1D Mark2で撮影される他、静止画像をコンピュータで巧みに操作し、動画のように構成したまさにデジタル時代の到来を告げる、新しい写真表現となっています。1年間の力作への挑戦をご高覧ください。

◎お問い合わせ：
キヤノン(株)コーポレートコミュニケーションセンター
社会・文化支援室 写真新世紀 03-5482-3904

2004年度年間グランプリ公開審査会&グランプリセレモニー



優秀賞受賞5名の中から、グランプリ1名を選出する公開審査会が行われます。公開審査会では、出展者5名の作家による作品プレゼンテーションを始め、審査員の先生方の生の写真論に触れる交流の場となることでしょう。

■日時：12月1日(水) 17:00~18:30(公開審査会) ※審査会終了後、セレモニーがあります

○公開審査会お問い合わせ：03-5482-3904

※電話予約の上、先着150名の方がご覧になれます。(一般の方もご参加になれます)

左：公開審査の様子2003年

| 10 |

eyes

B1F/ 地下1階映像展示室
Images & Technology Gallery

年始
特別開館
1月2日より開館

友の会
割引

三越カード
割引

アトレカード
割引

2004年12月18日(土) → 2005年1月30日(日)

**クレア・ランガン
「フィルム・トリロジー」展**
Clare Langan A Film Trilogy

詳細ホームページ <http://www.syabi.com/schedule.html>

- 一般 700(560)円 ○学生 500(400)円
- 中高生・65歳以上 400(320)円
- ()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、上記カード会員割引料金
- ※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
- ※第3水曜日は65歳以上無料
- 主催：クレア・ランガン展実行委員会
- 共催：東京都写真美術館
- 後援：アイルランド大使館
- 協賛：東京建機株式会社、株式会社イー・ホームズ、株式会社栄光
- 協力：松下電器産業株式会社
- 助成：グレイブプリテン・ササカワ財団



"Forty below III" © Clare Langan

展示作品・映像作品 合計3点
「フィルム・トリロジー」
1. Forty below (1999)
2. Too dark for night (2001)
3. Glass hour (2002)

アイルランド出身の映像インスタレーション作家として世界的に注目を集めるクレア・ランガン。東京都写真美術館では彼女の代表作「フィルム・トリロジー」を日本で初めてご紹介致します。
1999年に発表された「Forty below」に始まり、第2作目の「Too dark for night」、そして昨秋に完成した最新作「Glass hour」によって完結を果たした三部作(トリロジー)。水・砂・火をテーマに、壮大なスケールで美しく幻想的な世界を、サラウンド・スピーカーによる音の体感を通じて、是非ともお楽しみください。

◎お問い合わせ：
クレア・ランガン展実行委員会事務局 03-5501-3203

2F 2階展示室
Exhibition Gallery



SUNKEN HEARTH. Plain Wood party gilded, Bamboo, White Carp © SEIJU TODA

「HEIAN 戸田正寿作品展」

2005年1月21日(土) → 2月19日(土)

○一般 700円(560円) ○学生 600円(480円) ○中高生・65歳以上 500円(400円)

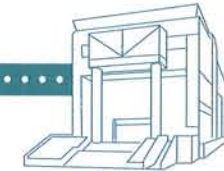
「光」「色」「湿度」「空気」「優しさ」といった純粋なイメージの連想に加え、独自の「引き算」というコンセプトで、より純化された美を表現した「HEIAN」。人工的なライティングは一切使用せず、肉眼を通して見つめるがごとく撮影された生きた作品の数々…。本展では、戸田正寿が撮り続けたこれらの作品を紹介致します。

◎お問い合わせ：戸田事務所 03-5778-3381

eyes

11

10th Anniversary



東京都写真美術館は、来年1月に開館10周年を迎えます。

当館はこれまでに2万点を超える写真や映像の収蔵作品や約5万4千点の蔵書を誇り、写真・映像に関する総合的な美術館として年間を通じてさまざまな展覧会を開催してきました。このコーナーでは「ZoomUp!写美」と題して4回にわたり、写真美術館を支えてきた各分野の一面をご紹介します。

ZoomUp! 写美Vol.3 ワークショップ/スクールプログラム
Work Shop/School Program

第三回は写真と映像を体験的に学ぶ「ワークショップ」と「スクールプログラム」をご紹介します。子供から大人まで幅広い世代に向けて、より多様な美術館の楽しみ方や参加の形を提案しているこれら教育普及活動は、美術館の中で最も「顔が見える」活動でもあります。



人気のワークショップ<B&Wプリント>より

広く一般の方に、楽しみながら理解していただく「ワークショップ」。内容は、展覧会の出品作家や、写真・映像分野で活躍するクリエイターのレクチャーを中心に、セミナー系と、参加者が制作を行う実技系のプログラムに分かれます。セミナーは、作家自身の作品への思いや制作過程でのエピソードを直接聞ける貴重な機会です。実技では暗室を利用したプリント体験や、19世紀に行われた写真の古典技法を再現した作業制作などめずらしい実技も体験できます。各プログラムでは、専門講師を招いて指導していただいたり、当館学芸員やボランティアスタッフが参加者の皆さんの活動をサポートします。去る8月21、22日に行われたワークショップ<動く写真とその仕組み>では、デジタルカメラと映像装置ゾートロブを使って、小学生が動画の仕組みを体験しました。自らがモデルとなった光の中を回転する手作り映像に、参加者から驚きと発見の歓声があがりました。

一方、小・中・高等学校の授業の一環として、学芸員が指導する「スクール・プログラム」は、写真と映像が氾濫する社会のなかで、ますますその必要性が問われています。当館収蔵作品を使った作品鑑賞の仕方や、体験学習など、担任の先生と話しながら、それぞれのクラスに合った、きめ細かな指導プログラムを作成しています。

写真美術館は、あらゆる年代の方から「学びの場」として活用していただけるよう、これからも教育普及活動に力を入れていきます。



指導研修を受けるボランティアスタッフ

ワークショップ<動く写真とその仕組み>より

NADIFF x 10

◎お問い合わせ：
「ナディッフ バイテン」/
直通 03-3280-3279
○新商品や入荷情報などは
ホームページでもご紹介しています。

1F ミュージアムショップ「ナディッフ バイテン」

www.syabi.com/shop/shop.html



Calendar

2005年カレンダーを入荷。個性的なデザインや仕様のカレンダーを、是非手にとってご覧ください。

2005年カレンダー各種

chambre claire

◎お問い合わせ：
カフェ「シャンブル クレール」
直通 03-5798-2218

1F 2F カフェ「シャンブル クレール〜明るい部屋〜」

www.syabi.com/cafe/cafe_01.html



Beer

ベルギー南部の農村地帯、ワロン地方特産のビール。レモンのさわやかな香りと飲みやすさが特徴です。

銘柄：グリゼット・ブランシュ
Grisette Blanche
価格：800円(税込) アルコール：5.0%

12

eyes

東京都写真美術館で観る映画シリーズ

当館では「写真美術館で観る映画シリーズ」と題し、選りすぐりの作品を上映しています。
美しい映像と心にしみる感動をお楽しみください。



シリーズ Vol.12 オランダの光

- 2003年/オランダ映画/94分
- 製作・監督：ピーター・リム・デ・クロン
- 脚本：マルテン・デ・クロン+ヘリット・ウィレムス
- 撮影監督：パウル・ファン・デン・ボス
- 提供：ツイン+セテラ・インターナショナル
- 配給：セテラ/配給協力：レゾナント・コミュニケーション
- 後援：オランダ大使館

詳細ホームページ <http://www.cetera.co.jp>
<http://www.dutchlight.nl>

フェルメールが描いた「光」とは、どんな色だろうか？

“オランダの光”それはフェルメールやレンブラントら17世紀オランダ絵画の巨匠たちが遺した傑作の源となった、独特の陰影を持つ同地の自然光のことと言われてきました。しかし現代美術家ヨゼフ・ボイスは1950年代に行われたアイセル湖の干拓が地形に変化を及ぼしたため、その光が失われてしまったと指摘。果たして“オランダの光”は、本当に失われてしまったのだろうか？そして“オランダの光”とは、本当に実在するのだろうか？かくて触れる事のできない“光”を追い求めて、想像を超えるオデッセイの始まり。これまで誰も語り得なかった光の存在を映像で探究する、まったく新しい形の知的エンタテインメントが誕生。

- 上映スケジュール：11月3日(水・祝)～12月17日(金)
- 休映日：月曜日
- 上映時間：10:30/12:30/14:30/16:30/18:30
- 料金：一般 1,800円 学生 1,500円 中学生以下・シニア 1,000円

◎お問い合わせ：セテラ/03-3715-5775

シリーズ Vol.13 ネオファンタジア

華麗!嘆息! イタリアの巨匠、ブルーノ・ボツェット監督による伝説のミュージカルアニメーションが今再び降臨!



誰もが御存知のディズニー作品をボツェットが作ったらどうなるだろう。そんなところから生まれた意欲作が本作。シベリウス、ドヴォルザークなどの名曲をカラヤンが指揮。名曲たちに合わせて様々な展開を魅せる異色の作品。

- 提供：アスミック・エース エンタテインメント
- 配給：ブチグラバブリッシング

- 上映スケジュール：2005年1月2日(日)～1月28日(金)
- 休映日：月曜日(祝日の場合は翌日)
- 上映時間：10:20/12:25/14:30/16:35/18:40
- ※ただし1月2日(日)～1月4日(火)は12:25/14:30/16:35
- 料金：一般 1,800円 学生 1,500円 中学生以下・シニア 1,000円

◎お問い合わせ：ブチグラバブリッシング/03-5366-2400

イタリア・アニメーション映画祭



日伊文化協定50周年を記念して開催される「大イタリア祭」の一環として「イタリア・アニメーション映画祭」を開催。期間中はブルーノ・ボツェット監督作品をはじめ、日本未公開作品を含む傑作を日替わりで上映いたします。

- 上映スケジュール：2004年12月18日(土)～26日(日) *12/20休館

■主催：読売新聞 東京本社

詳細ホームページ <http://info.yomiuri.co.jp/event>

◎お問い合わせ：読売新聞事業開発部/03-5159-5886

●特別維持会員

キヤノン株式会社
株式会社資生堂
東京電力株式会社
凸版印刷株式会社
株式会社リコー

●維持会員

株式会社アサツー ディ・ケイ
朝日新聞社
朝日生命保険相互会社
アサヒビール株式会社
朝日放送株式会社
アップルコンピュータ株式会社
株式会社イトーヨーカ堂
エスエス製菓株式会社
株式会社NHKエンタープライズ21
NTTコミュニケーションズ株式会社
株式会社NTTドコモ
株式会社大林組
オリンパス株式会社
株式会社オンワード樞山
科研製菓株式会社
カシオ計算機株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社角川書店
カトーレック株式会社
カルピス株式会社
キッコーマン株式会社
キヤノン販売株式会社
共同印刷株式会社
社団法人共同通信社
協和発酵工業株式会社

キリンビール株式会社

株式会社講談社
株式会社コーセー
コダック株式会社
株式会社コンプレ
株式会社ザ・アール
サッポロホールディングス株式会社
佐藤製菓株式会社
三共株式会社
産経新聞社
サントリー株式会社
ジェイティービー印刷株式会社
株式会社実業之日本社
清水建設株式会社
株式会社写真弘社
シャネル株式会社
株式会社集英社
株式会社主婦と生活社
株式会社小学館
松竹株式会社
信越化学工業株式会社
株式会社新潮社
セイコー株式会社
セイコーエプソン株式会社
セントラル警備保障株式会社
ソニー株式会社
第一建築サービス株式会社
大成建設株式会社
大日本印刷株式会社
株式会社竹中工務店
株式会社タムロン
株式会社丹青社

中外製薬株式会社

株式会社デー・オー・ダブリュー
株式会社テレビ東京
株式会社電通
東亜建設工業株式会社
東海旅客鉄道株式会社
東京ガス株式会社
東京急行電鉄株式会社
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
東京総合写真専門学校
株式会社東京ドーム
株式会社東芝
株式会社東北新社
株式会社徳間書店
図書館株式会社
戸田建設株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社ニコン
日産自動車株式会社
日本オラル株式会社
日本興亜損害保険株式会社
社団法人日本広告写真家協会
日本写真芸術専門学校
日本写真作家協会
社団法人日本写真文化協会
日本信販株式会社
日本大学芸術学部
日本たばこ産業株式会社
日本テレビ放送網株式会社
日本ハム株式会社
日本ビルサービス株式会社

日本放送協会

日本油脂株式会社
日本リーバ株式会社
株式会社博報堂
株式会社バンダイ
びあ株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
株式会社ファーストリテイリング
株式会社ファンケル
富国生命保険相互会社
富士重工業株式会社(スバル)
富士ゼロックス株式会社
株式会社フジテレビジョン
株式会社ブリヂストン
株式会社プリンスホテル
株式会社フレームマン
株式会社ベネッセコーポレーション
バンタックス株式会社
株式会社ホテルオークラ
株式会社堀内カラー
本田技研工業株式会社
毎日新聞社
株式会社マガジンハウス
丸善株式会社
三井倉庫株式会社
森ビル株式会社
モンブランジャパン株式会社
横河電機株式会社
読売新聞社
ライオン株式会社
株式会社ワコール
(平成16年9月現在・五十音順)

Museum Information

年末年始休館日：
12月29日(水)～1月1日(土)
年始特別開館日：
1月2日(日)～1月4日(火)
写美の新年は1月2日より開館いたします。
楽しいイベントやプレゼントなどをご用意してみなさまのご来館をお待ち致しております。
※詳しくは12月頃ホームページでお知らせいたします。

東京都写真美術館はJR恵比寿駅から強い日差しや雨を気にせずにご来館いただけます。スカイウォーク終点のインフォメーションブースまでお気軽にお尋ね下さい。

友の会 Supporter

東京都写真美術館では、随時会員の募集をしています。写真美術館ニュース eyesの送付をはじめ、たくさんの特典、割引がございます。開館時間中(10:00～18:00)に当館1階チケットカウンター横「友の会カウンター」にてご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

年会費	
個人会員	2,000円
家族会員(同伴者1名まで)	3,000円
シルバー会員(65歳以上の方)	1,000円

○受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
○会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。
※詳細は当美術館までお問い合わせください。
TEL:03-3280-0099